第 58 回 SSN 勉強会

午前　「船橋市立坪井小学校周辺の観察と支援の工夫について」

午後　「子どもたちに伝えたい季節の行事・冬」

河添 寿子（千葉市）

日　時：2012 年 11 月 29 日（木）　午前 10 時～午後 3 時 30 分
講　師：午前　林 信子、宮川榮子、吉田祥子、渡辺喜久子（会員）
　　午後　大山暁子、佐藤一枝(会員)
場　所：午前中は学校周辺の観察フィールド、午後は学校の会議室
参加者：岩根、宇野、大山、勝股、河添、小西、小林(義)、佐口、佐藤(一)、新堀、林(信)、宮川、八木(千)、山田(益)、吉田(祥) 渡辺(喜) 16 名、 非会員 10 名

坪井小 1 年生の観察支援は 6 年前から、地域の大人と子どもの交流を兼ねて始まり、今年は指導員 5 名、老人会と地域の観察グループの協力者を入れて約 150 名という大勢での観察会である。学校の近隣は新興の住宅が多く立ち並んでいるが、北側は広々とした畑に面しており、約 1.5 ㎞のコースの途中には雑木林、竹林、栗林、梨畑、駒込川(今は排水路になっている)、調整池もあって、変化に富んだ里山の自然は、子どもたちと自然に親しむ活動をするには最適であった。大勢での観察会をスムースに安全に行うために、色々な工夫をされているが、その中から印象に残ったものを 2 点挙げると、
1)班分けリボンの色が多数で児童には識別が難しいので、リボンに可愛い飾りをつける。
2)緊急時に現在いる場所を特定しやすいよう、地図の主要箇所に記号をつけて学校に渡す。
最近は老人会の高齢化が進んだため、保護者の協力をお願いすることになっているとのこと。

午後の部では、まず大山さんが「日本の七十二候を楽しむ」東邦出版を読んで、七十二候という暦の面白さを発見したことを、例をあげながらお話された。七十二候は、農業に役立てたり、自然災害から身を守るなど、切実な暦であり、昔の人は豊かでなくとも花やもみじを楽しみ、鳥がきた、いつ帰るとかを親しみ深く見ていたと思うと、自然観察の原点がここにあると感じたそうだ。「私たちが接している小学生にも木の名前を覚える、花の構造を知るだけでなく、空の色を見る、季節ごとの風の違いを感じる、生きものに関心を持つなどから自然に親しんでほしいと思うし、そのためのヒントを発信していけるように大人も敏感になりたいものです。」と結ばれた。

佐藤一枝さんはたくさんのサンプルを持参して、ご自身のお家での習慣を基に、正月準備の門松の話から始まり、しめ縄、年越し蕎麦、七草がゆ、鏡開き、きわた(栗の木に小さな白い餅を飾る)、節分など詳しく興味深いお話をされた。冬の子どもの遊び(お手玉、はねつき)も実演してくださった。昭和の森の田んぼで採れた稲わらと農家のわらを使って、小林義和さんの指導の下、参加者も縄をなう実習をした。初心者には難しかったが、それなりの物が出来、同じ技量でもワラの質が良いと美しくできることも実感した。折り紙で三宝も作り、参加者一同大事に持ち帰った。四季の行事について学んだ一年間であったが、楽しい行事を大事に守りながら、子どもたちや孫たちに伝えたいとの思いを強くした勉強会となった。

縄をなう実習